

事業報告書

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

公益財団法人 札幌交響楽団

公益財団法人札幌交響楽団は、定款第2章第3条に基づき、交響管弦楽による音楽芸術の普及向上に関し、必要な事業を行い、もって札幌市及び北海道における文化と教育の振興に寄与することを目的とする事業を行った。

定款第2章第4条に掲げる事業を次のように行った。

平成29年度のオーケストラによる公演

(1) 札幌交響楽団を編成し、及び維持すること。

1. 評議員、役員等及び事務局

評議員19名、理事19名、監事2名、事務局員14名

2. 交響楽団の編成

首席指揮者、名誉音楽監督、名誉指揮者、友情客演指揮者 各1名、指揮者2名、楽団員75名

ステージスタッフ、ライブラリアン及びパーソネルマネージャー 計3名

3. 公演回数と練習日数

首席指揮者、名誉音楽監督、名誉指揮者、友情客演指揮者、指揮者及び楽団員は、次の回数の公演に出演し練習に従事した。

首席指揮者 マックス・ポンマー	出演回数10回、練習日数13日
-----------------	-----------------

名誉音楽監督 尾高忠明	出演回数 9回、練習日数11日
-------------	-----------------

名誉指揮者 ラドミル・エリシュカ	出演回数 2回、練習日数 3日
------------------	-----------------

友情客演指揮者 広上淳一	出演回数 4回、練習日数 5日
--------------	-----------------

指揮者 佐藤俊太郎	出演回数27回、練習日数 8日
-----------	-----------------

指揮者 垣内悠希	出演回数14回、練習日数 7日
----------	-----------------

交響楽団としての出演回数は合計126回、練習日数108日

なお交響楽団として移動日も含めての稼働日数は237日

この他小編成による教育や福祉関係の活動64回

(2) 交響管弦楽の演奏を行うこと。

1. 自主公演 計41公演

【定期演奏会】

平成29年4月から平成30年3月までに1プログラムにつき2回ずつの公演を実施、計20公演実施した。

定期演奏会は札幌交響楽団の活動の主軸になる公演。ポンマーが3回計6公演、尾高が1回計2公演、エリシュカが1回2公演を指揮した。

【特別演奏会】

名曲シリーズは平成29年4月から平成30年3月までに5公演、その他札幌市内で9公演、計14公演。北海道内地方で6公演、道外では東京で1公演、合計21公演実施した。

○札幌市内公演

1～5 札幌名曲シリーズ

6月24日、9月9日、10月14日、2月3日、3月10日

6. 札幌シンフォニック・プラス 5月14日

7. 8 札幌ポップス・コンサート Vol.15 (2公演) 7月24日

9. 10 札幌&アキラさんの大発見+モダンコンサート (2公演)

8月20日

11. 12 札幌の第9 (2公演) 12月16日、17日

13. 14 札幌ふきのとうホール演奏会 (2公演) 4月5日、2月14日

○北海道内地方公演

札幌交響楽団は北海道内各地に優れた演奏を届けることが重大な使命であると考え、平成29年度は自主・依頼公演、音楽教室合わせ道内40公演を実施。

北海道内地方公演－自主公演分

1. 根室公演 4月15日

2. 岩内公演 4月28日

3. 七飯公演 7月13日

4. 今金公演 7月14日

5. 深川公演 7月18日

6. 小樽公演 1月20日

○東京公演 2月 6日

ポンマーの指揮でベートーヴェンの「田園」と「運命」を演奏、ポンマーの首席指揮者任期最後の演奏を東京で披露、好評を博した。

2. 依頼公演

各種団体、企業、自治体などが主催する演奏会に依頼に応じて出演。(計47公演)

○札幌市内公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25公演

○北海道内地方公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22公演

北海道新聞社、北洋銀行、北海道銀行、北海道電力、札幌市芸術文化財団(キタラ)、北海道公立学校教職員互助会をはじめ多くの企業、自治体の依頼を受けて開催。

(3) 青少年の音楽鑑賞及び演奏に関し、指導を行い、その普及を図ること。

オーケストラによる音楽教室を次のとおり開催。(計38公演)

○札幌市内公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18公演

○北海道内地方公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12公演

○北海道外公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8公演

文化庁からの依頼により北海道、青森、秋田、岩手、宮城での公演を行った。

楽団員によるワークショップ(体験型音楽教室)や楽器講習会では、学生と音楽を通して交流を深め、鑑賞するだけでなく演奏に参加する感動も広めることができた。(計26回)

(4) その他この法人の目的を達成するために必要な事業を行うこと。

1) 広報宣伝

○プログラムの発行

定期演奏会ははじめ自主公演では毎回、音楽評論家等による楽曲解説、楽団の活動報告、楽団員紹介を載せたプログラムを発行、公演来場者及び会員、関係先に配布。

○ニュースレターの発行

札幌交響楽団の活動報告、公演案内など、最新情報を掲載したニュースレターを年に4回発行。

○ホームページによる広報

札幌交響楽団の最新情報を掲載し、チケット販売の促進をするほか、定期会員・パトロン・ジュニア会員の入会案内を行った。また、フェイスブック、ツイッターを用いて随時リハーサル風景、演奏会情報を告知。

○札幌交響楽団ものがたりー創設からの軌跡展の開催

9月22日から12月19日まで、Kitara ギャラリーにて、札幌がこれまで歩んだ歴史をパネル写真や資料で紹介。

2) その他の公演事業

○アンサンブル（28回）

コンサートホール以外の様々な場所でも演奏することによって、クラシック音楽に接する機会が少ない方にも札幌の存在をアピールした。

○慰問演奏（10回）

特別支援学校、老人ホーム、障害者施設などに楽団員が出向き、コンサートに出かけることのできない方々に音楽鑑賞の機会を提供、社会貢献活動を行なった。

3) 記録の整理と活用（周年特別会計）

○記録資料

資料文書を整理、演奏記録のデータベース化を図っている。平成29年度はPCM方式の音源（VHS、βテープ保存の音源）のデジタルデータ化を図ったが、委託先が見つからず、調査継続中である。

札幌交響楽団 平成29年度活動報告

平成30年5月9日作成

公益財団法人 札幌交響楽団

札幌市中央区中島公園1-15

札幌コンサートホール内

<http://www.sso.or.jp>

札幌交響楽団の活動

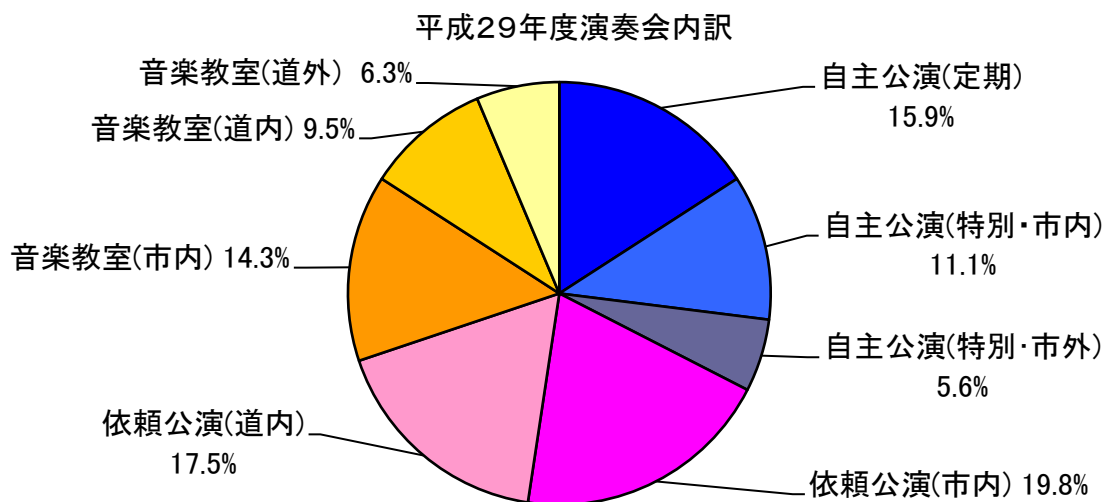
オーケストラ演奏会 計126公演

■ 自主公演(41公演)

定期演奏会(札幌市内)	20公演
札幌市内	14公演
北海道内	6公演
北海道外	1公演

■ 依頼公演(47公演)

■ 音楽教室(38公演)



教育・地域活動、アンサンブル演奏 計 64公演

総計190公演

自主公演 札幌が主催した演奏会です。

■ 定期演奏会 年20公演

■ 札幌市内公演 年14公演

札幌名曲シリーズ(5公演)
札幌シンフォニック・ブラス
アキラさんの大発見コンサート
アキラさんのモダンコンサート
札幌ポップスコンサートvol.15(2公演)
札幌の第9(2公演)
ふきのとうホール演奏会(2公演)

■ 北海道内公演 年6公演

根室公演
岩内公演(アキラさんのモダンコンサート)
七飯公演
今金公演(萬田記念財団 協賛公演)
深川公演
札幌ニューイヤークンサートin小樽

■ 北海道外公演 年1公演

東京公演2018 (東京・サントリーホール)



6月、記念すべき第600回記念定期演奏会を、多くのお客様とともに祝うことができました。
(指揮:M.ポンマー)



萬田記念財団の支援を受けた今金町での公演は、陽光の差し込む体育館での開催でした。



首席指揮者として最後の出演にM.ポンマーは、集大成となるベートーヴェンの王道プログラムを東京公演で演奏、高い評価を受けました。

依頼公演

企業、自治体などの依頼で
演奏会を提供しました。

■ 札幌市内公演

全25公演

Kitara主催(4公演)、ほくでん、道銀、北洋、友の会、ロジネットジャパン、さぽーとさっぽろ、HBA、さっしん、999人の第九、JAF、HTB、日演連、タナカメディカルグループ、あいプランが継続して開催。

また、過去に開催し好評を得た企画の継続として、ゲーム音楽のコンサート、玉置浩二シンフォニックコンサート、NHK10代とつくるコンサート、若者の第九が開催されました。

さらに、平成30年度にオープンする札幌文化芸術劇場のプレオープンコンサートや、HBC65周年コンサート、さらには久しぶりの来日となった世界的オペラ歌手グルベローヴァのコンサート等、記念となる公演に出演しました。



日本オーケストラ連盟提唱の「オーケストラの日」参加事業として開催の「若者のための第9」。高校生も合唱団に参加し、将来へとつながる公演とすることができました。



こけら落としの指揮を務めるバットィストーニによる名演により、札幌文化芸術劇場への期待が一気に高まりました。

■ 道内各地の公演

全22公演

北海道新聞社との共催 9公演

(江別、稚内、紋別、釧路、室蘭、岩見沢、北広島、千歳、栗山)

ほくでんファミリーコンサート 4公演

(岩見沢、鶴川、知内、積丹)

北海道公立学校教職員互助会公演 2公演

(羅臼、遠別)

北洋銀行コンサート 5公演

(旭川、苫小牧、北見、帯広、釧路)

ホクレングリーンコンサート(岩見沢)

クロネコヤマト音楽宅急便(旭川)



北洋銀行100周年記念として開催の北洋銀行presentsコンサートは、札幌を含め道内6都市で開催されました。

音楽教室

青少年向けに音楽の楽しさを伝えました。

■ Kitaraファーストコンサート ／ 広域圏ジュニアクラシック

平成29年度、札幌市主催による札幌市内の全小学6年生を対象としたKitaraファーストコンサート全9公演と札幌市広域圏組合主催による近隣市町小学生を対象とした広域圏ジュニアクラシックコンサート2公演を開催しました。
指揮は札幌指揮者の佐藤俊太郎と垣内悠希が務めました。



■ ジュニアクラシック

北海道新聞社などの助成をもとに道内各地で開催のジュニアクラシックコンサートを、継続している登別、旭川、恵庭、小樽、苫小牧、音更と、隔年開催の帯広において実施しました(帯広は2公演)
また、札幌市内の高等学校5校及び広域圏内の高等学校2校からの依頼で、Kitaraを会場としたジュニアクラシックコンサートを開催しました。

■ 文化庁主催・文化芸術による子供の育成事業(巡回公演)

平成29年度も文化庁主催により北海道内の4校ならびに、青森県、秋田県、岩手県、宮城県の小中学校8校の計12校を訪問する巡回公演を行いました。
オーケストラ公演の前には、楽団員が訪問して事前学習を行い、子どもたちとの交流の中で興味の喚起や理解の促進に努めました。



教育・地域活動、 アンサンブル演奏会



小学校を訪れる音楽創造体験プログラムでは、各学校との細かな打ち合わせを行って、子どもたちの音楽への興味を深めるために様々なプログラムを展開しています。



オーケストラ演奏会で道内各地を訪れる機会にあわせ、病院や学校を訪問するなど北海道全域における音楽文化振興にとりこんでいます。



定期演奏会と連携し市民講座の解説や、練習見学会の実施、見学会時の指揮者、ソリストによるミニトークなど、様々な方法で市民への音楽の普及に努めています。



スクールの様子を動画で案内中→



札幌ボランティア「ピリッキー」の支援による子ども定期会員制度(ピリッキースクール)は、楽団員たちの事前学習を組み合わせ、未来の音楽家や音楽ファンの芽を積極的に育てています。

ありがとうマエストロ、未来へと続く響き

● 10月 ラドミル・エリシュカ 最後の来日公演

平成20年から札幌首席客演指揮者、その後27年からは名誉指揮者として、毎年共演を重ね、札幌とは奇跡の名コンビとして全国にファンを拡げてきたラドミル・エリシュカが、健康上の理由で、10月に予定していた札幌との共演を最後の来日公演とすることとなりました。

多くのファンを魅了してきたその人柄と音楽は、最後の演奏会でさらに大きく育ち、マエストロ、オーケストラ、聴衆、そして関わったすべての関係者たちの心がひとつとなった感動的な演奏会でしめくることができました。

その様子は様々な媒体を通じ、再び全国へと発信され、札幌の財産として将来へと残る大切な歴史となったと考えています。



↑ 最終公演のカーテンコールにて



← 会場に設置したマエストロへの寄せ書き。楽団員もファンも皆で感謝の気持ちを表した。

● 3月 マックス・ポンマー任期満了



平成27年から3年の任期で首席指揮者を務めたマックス・ポンマーは平成29年度末の任期満了で退任しました。故郷ライプツィヒゆかりのバッハやメンデルスゾーン、得意とする合唱や現代曲など、札幌のレパートリーに確かな軌跡を残し、さらに今後も実りある共演を重ねていくことを確認しての未来へつながる退任となりました。

● 新しい活動の場所



平成29年度、市内で200席程度のふきのとうホールを会場とした小編成の主催演奏会シリーズに着手しました。平成30年度には、オペラ等舞台芸術の場として札幌文化芸術劇場が開館することとなり、今後、札幌交響楽団として幅広い分野で音楽に取り組んでいくこととなります。